

2014年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施結果について

—産学連携プログラム科目に対する学生の評価—

Industry-University Consortium on Logistics

1. 受講した学生による評価の アンケート調査の目的、方法

流通経済大学流通情報学部では、企業等の一線で働く方に講師を依頼し、複数の「実践講座、寄付講座」を開講している。2014年度の開講状況については、物流問題研究No63に掲載したとおりである。本稿は、企業講師による産学連携プログラム科目の内容の適切性・有効性を実証的に検証するために実施した、学生による授業評価結果について、報告するものである。なお、2013年度の学生による授業評価結果は物流問題研究No62に掲載したとおりである。

- アンケート調査方法・調査対象・回収数
- ・ 自記式調査票によるアンケート調査（無記名）
- ・ 産学連携プログラム科目である「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「全国通運連盟寄付講座」、「日本通信販売協会寄付講座」を2014年度に受講した学生
- ・ アンケート回収数 187名

2. アンケート回答者の特性

アンケートは、それぞれの科目の開講の最終日に実施した。回答者は2年生が45.5%、3年生が39.0%、4年生が15.5%、日本人が

81.8%、留学生在が18.2%となっている。

最も興味を持っている分野は「物流」が39.8%、次いで「商業流通や経営」が27.4%となっており、日本人、留学生ともこの両分野が最も多くなっている。日本人は続いて「情報」も20.9%と多くなっており、特に2年生は29.5%と多いが、3年生、4年生と減少する傾向にある。一方、「物流」については2年生では29.5%であるが、3年生、4年生と増加する傾向にある。留学生は「物流」が54.5%となっており、学年を問わず多い傾向にある。

将来就職したい業種は、「情報・通信業」（44.9%）が最も多い。続いて、「小売業」、「倉庫・運輸関連業」、「卸売業」となっている。「陸運業」は26.5%、「海運業」は18.4%、「空運業」は20.0%となっている。物流系についても、関心が高いといえる。なお、日本人は「情報・通信業」が最も多く、続いて「小売業」、「倉庫・運輸関連業」となっているのに対して、留学生は「空運業」が最も多く、「倉庫・運輸関連業」、「卸売業」と続いている。

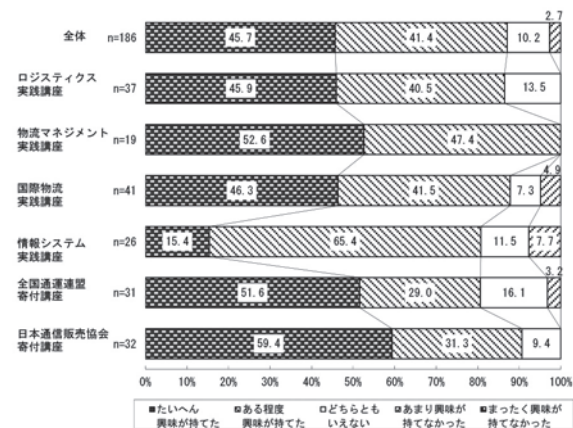
3. 産学連携プログラム科目に 対する評価

3-1 産学連携プログラム科目に対する全体 評価、満足度

産学連携プログラム科目での実際の企業の事例紹介については、9割弱の学生が「興味が持てた」と回答している。「たいへん興味

を持てた」というのは、45.7%となっており、昨年度（42.2%）よりも増加している。企業講師の講義内容は、事例を含めたものであることから、より具体的であり、わかりやすく興味を持てたという回答が多い。科目別では、「たいへん興味を持てた」というのが「日本通信販売協会寄付講座」で59.4%、「物流マネジメント実践講座」で52.6%、「国際物流実践講座」で46.3%、「情報システム実践講座」で15.4%、「全国通運連盟寄付講座」で51.6%、「日本通信販売協会寄付講座」では、いずれも5割以上となっており、多くなっている。「たいへん興味を持てた」というのは、2年生が40.0%、3年生が48.6%、4年生が55.2%と学年が進むのに伴って高まる傾向はあるものの、2年生でも比率は高く、早い段階から受講することは意味があると考えられる。

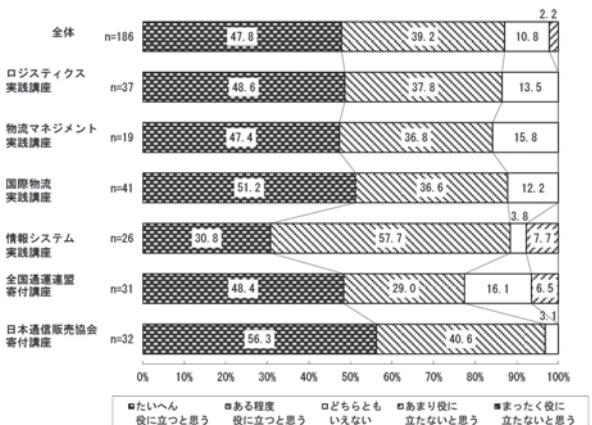
図表-1 実際の企業の事例紹介について



授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つかということについては、役に立つと思う受講生が9割弱となっており、「たいへん役に立つと思う」が47.8%となっている。学年別、日本人・留学生別では大きな差異がみられない。

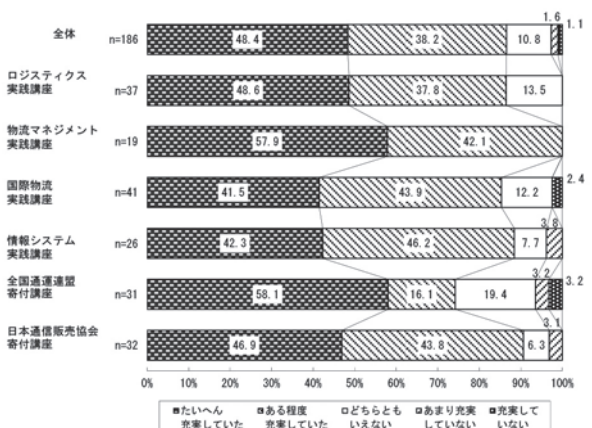
授業内容の充実度については、86.6%の学生が充実していたと回答している。科目別に

図表-2 授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つか



みても、ほぼすべての科目において、8割以上の学生が充実していたと回答している。特に「全国通運連盟寄付講座」、「物流マネジメント実践講座」では、「たいへん充実していた」という回答が、6割弱となっている。学年別には大きな差異は見られない。留学生はほぼ9割が充実していたと回答している。

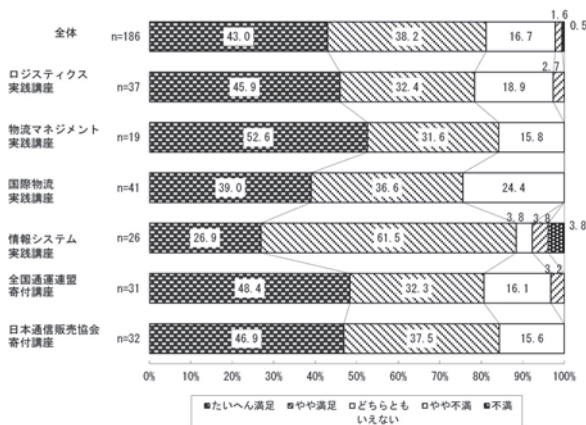
図表-3 授業内容の充実度



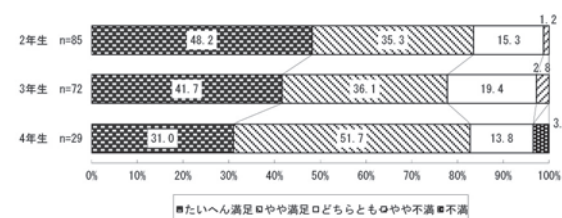
産学連携プログラム科目に対する満足度は、全体では満足が81.2%となっており、昨年度の81.4%と同様、高い結果となっている。科目別にみても、いずれも満足度が高い結果となっている。「たいへん満足」が5割前後になっている科目もある。学年別には、「たい

へん満足」が2年生は48.2%、3年生は41.7%、4年生は31.0%と減少する傾向があるが、「たいへん満足」、「やや満足」を足した満足全体では、いずれの学年も8割前後となっている。また、留学生も満足という回答が85.3%となっている。

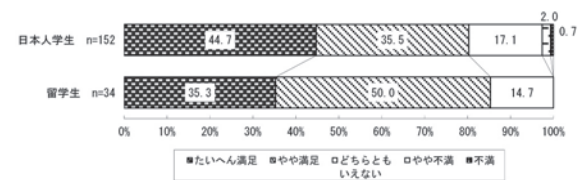
図表-4 満足度



図表-5 学年別満足度



図表-6 日本人・留学生別満足度

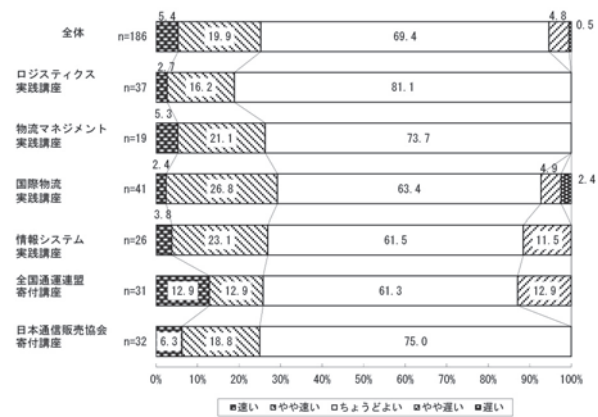


3-2 産学連携プログラム科目の進め方等に対する評価

授業の進み具合について、全体では「ちょうどよい」が69.4%と、最も多くなっている。いずれの科目も、約6割以上が「ちょうどよい」としている。「全国通運連盟寄付講座」では、

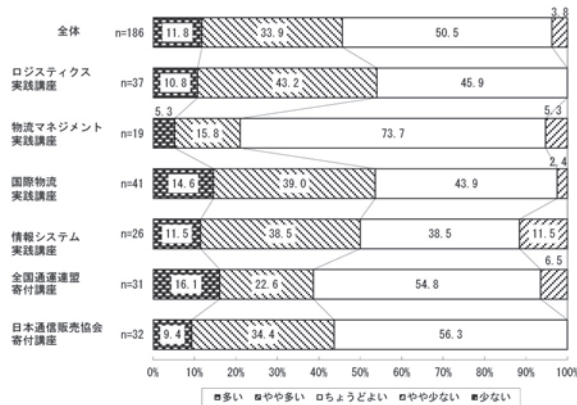
「速い」が12.9%とほかに比べて多い。また、留学生からは「速い」、「やや速い」という回答が、それぞれ8.8%、32.4%と多くなっている。

図表-7 授業の進み具合



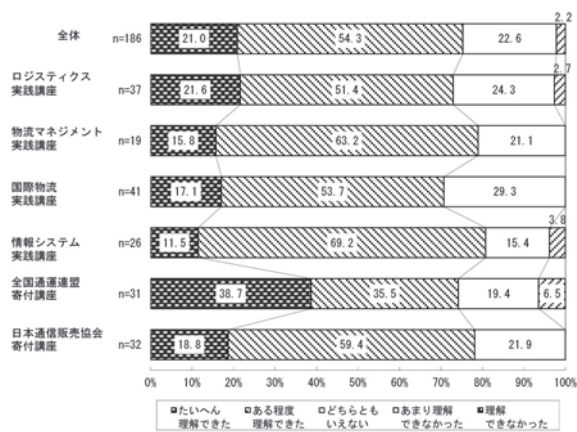
授業内容の分量については、「ちょうどよい」という回答が50.5%と最も多いものの、「やや多い」、「多い」という回答も、合わせると4割を超えており、昨年度とほぼ同様の傾向となっている。特に、「ロジスティクス実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」では、「やや多い」、「多い」という回答が5割強となっているほか、「全国通運連盟寄付講座」、「日本通信販売協会寄付講座」でも4割前後となっている。一般の企業人向けの講義では分量が多いことが望まれる場合も多いが、学生では理解しきれない場合も発生している。前年度使用した資料に、内容を追加している場合も多く、全体的には分量が増える傾向にあり、1回の講義で使用するパワーポイントのシートが100枚を超える場合もある。多くの内容を紹介するより、要点に絞った説明にするよう、さらに改善する必要がある。

図表-8 授業内容の分量



授業内容に対する理解度については、「ある程度理解できた」というのが、全体では54.3%と最も割合が高くなっている。どの科目においても、理解できたという比率は7割を超えている。学年別には、大きな差異がない。

図表-9 授業内容に対する理解度



重点事項の整理・確認などをして授業を進めたかということについては、「十分にしてくれた」、「ある程度してくれた」をあわせて71.5%となっている。

産学連携プログラム科目では、企業講師の授業に対する情熱を51.1%が「とても感じられた」と回答している。各科目別にみても、「ある程度感じられた」とあわせて約8割前後が

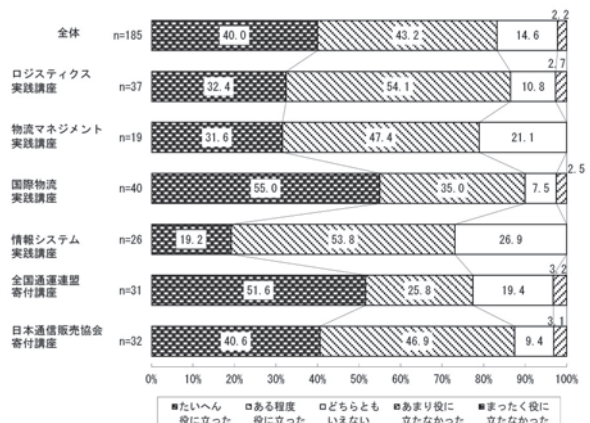
授業に対する企業講師の情熱を感じている。企業現場での経験も含めて、学生に伝えようとする情熱が学生に伝わっていると考えられる。

履修しやすさ、授業の進め方については「特に問題はない」が93.0%と最も多い。「半期科目なので履修しにくい」が11.4%となっている。

3-3 産学連携プログラム科目のその他の評価

産学連携プログラム科目は、83.2%がほかの講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。さらに「たいへん役に立った」も、40.0%となっている。このように産学連携プログラム科目は、その科目自体の評価が高いというだけでなく、他の講義科目等での理解を深めるのに役立っており、その相乗効果は非常に大きいと考えられる。学年別には、2年生で役立ったとしているのが多く、9割近くとなっている。実務経験がない学生からみると、物流についての業務イメージがわきにくいという問題がある。2年生のように早い

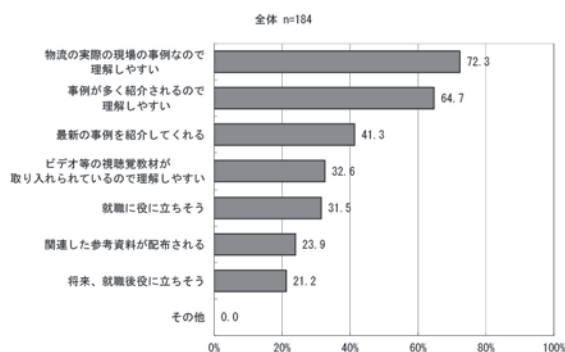
図表-10 他の講義科目の理解を深めるのに役立ったか



段階から企業事例などを見せることによって、理解を促進する効果があると考えられる。

産学連携プログラム科目の企業講師による講義の良い点は、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が72.3%、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」が64.7%となっている。さらに、「最新の事例を紹介してくれる」、「ビデオ等の視聴覚教材が取り入れられているので理解しやすい」と続いている。就職関連で役立つというよりは、理解しやすいということが特に評価されている。科目別にみると、「物流マネジメント実践講座」、「ロジスティクス実践講座」、「全国通運連盟寄付講座」では「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が多くなっているが、「日本通信販売協会寄付講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」では「事例が多く紹介されるので理解しやすい」という回答が最も多くなっている。また、「情報システム実践講座」では「ビデオ等の視聴覚教材が取り入れられているので理解しやすい」という回答が61.5%と多くなっている。

図表-11 講義の良い点(上位3つ)



以上、産学連携プログラム科目に対する学生の評価は、例年同様、極めて高いものであ

り、全体の満足度は81.2%であった。産学連携プログラム科目を通じて、ロジスティクスに関して興味を持ち、充実していたという回答が多くなっている。

本プログラムの目的の1つは、一般の講義だけでは、ロジスティクスに関する知識の重要性が学生になかなか伝わらないことから、実際の事例をいれることによって実感として分かりやすくすることである。学生は、産学連携プログラム科目を、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」という点で、特に評価しており、他の講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。今後も、一般の講義科目と連携して、実施していくことにより、教育効果をさらに高めることにつながると考えられる。

このように、産学連携プログラム科目の内容は、適切性・有効性という面から、高く評価でき、今後も継続して実施していくことが重要と考える。

注1：2014年度の産学連携プログラムの内容については、「2014年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施状況について」物流問題研究 No.63、12～17頁 (<http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/organizations/laboratory/distribution63.pdf#page=14>)を参照されたい。各科目の毎回のテーマ、講師について掲載してある。

注2：2013年度の産学連携プログラム科目に対する学生の評価については、「2013年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施結果について」物流問題研究No.62、25～29頁 (http://www.rku.ac.jp/pdf/about/data/organizations/laboratory/distribution62_05.pdf)を参考にされたい。

注3：「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」を実施するに当たり、業界団体、企業、教員の委員で構成される「ロジスティクス産学連携コンソーシアム」が設置されている。